

植物防疫情報 第4号

平成19年 9 月18日

岡山県病害虫防除所

岡山県植物防疫協会

ダイズ等のハスモンヨトウ、多発傾向

岡山県病害虫防除所が行ったフェロモントラップによる誘殺数調査によると、8月までの誘殺数は平年より少なく推移していましたが、9月以降（第1～3半旬）の誘殺数は、津山市では914頭（平年値854頭）、赤磐市では1,603頭（平年値1,240頭）と増加傾向となり、圃場での被害も目立つようになっていきます。本虫はダイズをはじめ、野菜、花き、果樹など広範囲な農作物を加害します。9月14日の季節予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いとされており、本虫の増殖に好適な条件であることから、今後、被害の多発が懸念されます。圃場を観察し、幼虫の発生が確認された場合は早めに防除を実施してください。

なお、農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守し、安全・適正に使用するとともに、圃場周辺に薬剤が飛散しないよう十分注意してください。

< 防除対策および防除上の参考事項 >

- (1) 若齢幼虫が群生している被害葉を切り取って処分する。
- (2) 本虫は多くの作物を加害する。ダイズ（種実用）における防除薬剤は下表によるが、野菜類等他の作物で発生が見られる場合は、岡山県農作物病害虫等防除指針（2007年度版）を参考に、最新の情報を確認して適正に使用する。

- (3) 老熟幼虫になると薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫の時期（ダイズでは白化葉が散見され始める時期）に薬剤防除を行う。なお、散布に当たっては薬剤が葉裏にもかかるように努める。
- (4) 本虫は薬剤抵抗性が問題となっているため、同じ系統の薬剤の連用や効果の低下した薬剤の使用は避ける。
- (5) 薬剤散布後は効果を確認するとともに、その後も幼虫の発生が見られた場合は追加防除を行う。

表 ダイズ（種実用）におけるハスモンヨトウの主な防除薬剤

系統名	薬剤名	農薬使用基準		
		使用時期** (収穫前日数)	使用回数	濃度・ 処理量
カーバメート系剤	ランネート45DF	14	4回以内	1,000～2,000倍
	ラービフロアブル	14	2回以内	750～1,000倍
合成ピレスロイド系剤	トレボン乳剤*	14	2回以内	1,000倍
	トレボン粉剤DL*	14		4kg/10a
IGR剤	アタブロン乳剤	14	2回以内	2,000～4,000倍
	ロムダンフロアブル	14		2,000倍
	ロムダンゾル	14	3回以内	1,000倍
	ロムダン粉剤DL	14		4kg/10a
	ノーモルト乳剤	14	2回以内	2,000倍
	マトリックフロアブル	1	3回以内	2,000～3,000倍
その他	トルネードフロアブル	7	2回以内	2,000倍

農薬の容器のラベルをよく読み、各単剤の有効成分を含む農薬の総使用回数を守る。

* 豆類（種実用）に登録（ダイズで使用可）。水産動植物に対する危害が発生しやすい地域および発生するおそれのある地域では使用しない。

** 収穫期が近づくので、特に使用時期には注意して薬剤を選択する。